

熊本県立大学

文学部紀要

第29巻 通巻第82号

2023年2月

Critical Pedagogy and Inquiry-Based Learning: Alternative Pedagogies for Critical Thinking Courses	武上 富美	1
「地上にいたままで、彼女は飛べた」 —トニ・モリスン『ソロモンの歌』における、相反と融合……	吉田 希依	19
日本語教員養成課程の中途段階における教育実習の実施とその改善 —協働による振り返りと学びの実践報告—	秋葉 多佳子	37
紹介・臼杵市文化財管理センター蔵『長崎道中日記』（三）	徳岡 涼	72 (23)
「 ^{わけ} 和解」から「翻訳」へ —Beschryvinge van het octant en deszelfs gebruik の訳出に見る 本木良永と志筑忠雄—	大島 明秀	94 (1)

熊本県立大学文学部

熊本県立大学文学部紀要投稿規定

熊本県立大学文学部紀要投稿編集委員会

2018年5月22日改訂

1. 発行回数 年1回
2. 投稿予告期限 別に通知する
3. 原稿提出期限 別に通知する
4. 投稿者の範囲 紀要に投稿できるものは次のとおりとする。
(1)文学部の専任教員（共同研究者を含む）
(2)編集委員会が認めた者
5. 原稿提出先 編集委員長に提出する。その際原稿の受理日を受理受付年月日として受け付ける。
6. 原稿の掲載及び順位 投稿論文は、編集委員会で査読担当者を定めて査読を依頼し掲載の可否を決する。また、その掲載順位も編集委員会で決定する。採用決定の原稿は変更を認めない。
7. 原稿の分量 (1)400字詰原稿用紙60枚以内とする。欧文の場合はおよそ65ストローク、25行を1頁として40枚以内とする。この場合図版・写真等も枚数に計算し、原稿提出の際図版の大きさ（刷り上がり）を指定する。（原稿分量の上限は厳守すること。）
(2)上記の量を超えた原稿は原則として受理しない。
8. 原稿の形式 (1)原稿は横書きまたは縦書きとする。
(2)和文原稿は口語体とし、常用漢字、現代仮名遣いを用いること。ただし、国文学、中国文学など特殊な場合はこの限りではない。
(3)引用文献及び注それぞれ追番号を付し、脚注又は文末に記載とする。（原稿分量に含める。）
(4)原稿は朱記をもって活字指定とすること。（本文9ポ、引用文、引用文献8ポ、イタリック、ゴシック体、特殊文字、記号など）
9. 校正 (1)三校までは執筆者が行う。
(2)校正の際に原稿の内容を修正し、また図版などを増減することはいできない。
10. 抜刷 執筆者に抜刷50部を贈る。ただし、さらに追加するときはその実費を執筆者が負担しなければならない。
11. 発行部数 400部
12. 著作権処理 当委員会は、本誌に掲載された全ての原稿を電子媒体によって複製、公開し、公衆に送信することができるものとする。また、他誌への転載を希望する場合は、先方からの依頼状を添付して学部長に申請し、転載原稿には本誌から転載した旨を明記すること。

※4の(2)に関して、本学の研究教育に関係のある範囲内で、学外者（共同研究者等）の投稿希望がある場合は、本人の申請理由書、および文学部教員の推薦書を添えて投稿予告とともに期日までに提出すること。

<本号執筆者紹介> (掲載順)

武上 富美 (熊本県立大学共通教育センター〔文学部兼務〕 准教授)

吉田 希依 (熊本県立大学文学部 講師)

秋葉多佳子 (熊本県立大学文学部 准教授)

徳岡 涼 (熊本県立大学文学部 非常勤講師)

大島 明秀 (熊本県立大学文学部 教授)

<編集委員> (五十音順)

岩田 芳子

五島 慶一

難波美和子

『熊本女子大学学術紀要』

1950年3月31日創刊

『熊本県立大学文学部紀要』

第1巻 (通巻47号) 1995年3月31日刊行

熊本県立大学文学部紀要

第29巻 (通巻82号)

2023年2月15日 印刷

2023年2月22日 発行

編集責任者 五島 慶一

発行 熊本県立大学文学部

熊本市東区月出3丁目1番100号

印刷 (株)啓文社

熊本県上益城郡

嘉島町下六嘉1765

再生紙を使用しています。

Journal of The Faculty of Letters Prefectural University of Kumamoto

VOL. 29, No. 82

February, 2023

Critical Pedagogy and Inquiry-Based Learning: Alternative Pedagogies for Critical Thinking Courses	TAKEGAMI Fumi	1
“Without Ever Leaving the Ground, She Could Fly”: Clashes and Fusion between Conflicting Values and Emotions in <i>Song of Solomon</i>	YOSHIDA Kei	19
On Conducting and Improving Teaching Practices in the Middle Phase of the Japanese Language Teacher’s Training Program: Reflections and Takeaways from Working with Other Trainees	AKIHA Takako	37
An Introduction to KASHIMA Hidekuni’s <i>Diary on the Way to Nagasaki</i> in the Usuki City Cultural Property Management Center (3)	TOKUOKA Ryo	72 (23)
From “Wage” as Explanation for Japanese Readers, to “Honyaku” as Translation at Modern Standards — Seen in the Differences between Motoki Ryōei and Shizuki Tadao’s Dutch-Japanese Translations of <i>Beschryvinge van het octant en deszelfs gebruik</i> —	ŌSHIMA Akihide	94 (1)

Faculty of Letters
PREFECTURAL UNIVERSITY OF KUMAMOTO

